



寧波博物館
2008年竣工
浙江省寧波市
延床面積 30,000 m²
撮影：富井雄太郎

ワタリウム美術館では、本年12月より、
プリツカー賞(2012)を受賞し、来年はヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の総合キュレーター(2027)
を務める建築家、ワン・シュウと、ルー・ウェンユーの、日本で初めての本格的な展覧会を
開催いたします。

次回展のご案内

ワン・シュウ+ルー・ウェンユー展 建築すなわち庭

会期: 2026年12月4日[金] - 2027年3月28日[日]

休館日: 月曜日(1/11・3/22は開館)、12/31-1/4 開館時間: 11時より19時まで

入館料: 大人 1,500円 / 大人ペア 2,600円 / 学生(25歳以下)・高校生・70歳以上の方・身体障害者手帳、療育手帳、
精神障害者保健福祉手帳お持ちの方、および介助者(1名様まで) 1,300円 / 小・中学生 500円

企画: ワタリウム美術館

主催: ワン・シュウ+ルー・ウェンユー建築展実行委員会

キュレーション: ワン・シュウ / ルー・ウェンユー / 助川剛 / 市川紘司 / ワタリウム美術館

会場構成: 藤原徹平

作品集制作: millegraph[株式会社ミルグラフ]

協力: アマチュア・アーキテクチャー・スタジオ / 中国美术学院建筑艺术学院

特別協力: 中国国際航空

助成: 公益財団法人 窓研究所 / 公益財団法人 花王芸術・科学財団 / 公益財団法人 朝日新聞文化財団

後援: 外務省 / 日本建築学会 / 日本建築家協会 / 在日本中華人民共和國大使館

会場: ワタリウム美術館

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6

Tel: 03-3402-3001 Fax: 03-3405-7714

Email: official@watarium.co.jp

URL: <http://www.watarium.co.jp>

WATARI-UM
The Watarium Museum of Contemporary Art



庭をつくることは、私たちが今日慣れ親しんでいる

建築学とはまったく異なる、

もうひとつの建築のあり方を示している。

それはきわめて土着的であり、

同時にきわめて精神的な建築活動である。

— ワン・シュウ

中国国家版本館杭州分館
浙江省杭州市
2023年竣工
延床面積 103,100 m²
撮影：富井雄太郎



ワンとルーは、1997年に中国・杭州でアマチュア・アーキテクチャー・スタジオ（業余建築工作室）を設立して以来、急速な都市化と経済成長が進む現代中国において、独自の建築実践を続けてきました。

彼らが掲げる「建築すなわち庭（建築即園林）」という考え方は、中国の伝統的な庭園である「園林」への深い洞察から生まれたものです。園林とは、木、石、水、橋、亭などの要素が組み合わせられ、自然物と人工物が溶け合うことによって、ひとつの世界を立ち上げる空間です。それは、ありのままの自然ではなく、自然と人間の想像力が交わることで生まれる、もうひとつの環境でもあります。ワンとルーは、この文人的な庭の思想を現代建築へと引き受けながら、園林、山水画、詩文、工芸、そして土地に根ざした素材や技術を手がかりに、建築の新しい可能性を切り拓いてきました。解体された村落から集められた瓦やレンガ、土、木、竹といった素材は、彼らの建築において単なるリサイクル材ではありません。それらは、失われつつある土地の記憶を呼び覚まし、新しい都市生活のなかに、別の時間を流れ込ませるための重要な媒体です。

本展では、原寸モックアップ、図面、模型、スケッチ、映像、写真、そして今回新たに設計・施工される茶室などを通じて、自然と人工、素材と身体、記憶と未来が交わる彼らの建築世界を紹介します。ワタリウム美術館の展示空間をひとつの「庭」として歩きながら、時間をかけて成熟してきた彼らの建築の魅力を体感する展覧会です。



太湖洞(たいこう)
中国伝統庭園(園林)の太湖石の奇岩をイメージしてファサードに穿たれる自由な開口
撮影：富井雄太郎



瓦片壁(わーばんへき)
解体された集落から廃棄されたレンガや瓦を集め再組積して作られるファサード

主な展示作品 —「庭」としての展示空間

本展覧会では、ワタリウム美術館の3層にわたる立体的な展示空間を活かし、鑑賞者が「庭」を散策するように、さまざまなスケールを横断しながらワン・シュウとルー・ウェンユーの建築を体感できる展示を構成します。

展示は主に、原寸モックアップ、図面・建築模型・スケッチ、映像・写真資料、茶室の4つの要素から成ります。

原寸モックアップと「材料板」

ワンとルーの建築は、手触りに富む物質性と、中国の伝統建築を現代的に読み替えた大胆な構法によって特徴づけられます。本展では、彼らの建築作品に用いられてきた木架構、竹や土の壁の原寸モックアップを展示します。写真や図面だけでは伝わりにくい素材の重さ、粗さ、温度を、身体的な距離で体験することができます。また、多彩なマテリアル・パレットとしての「材料板」も展示し、瓦、レンガ、土、木、竹などが、どのように建築の表情と空間をつくり出しているのかを紹介します。



臨安博物館の木架構
1/4スケール・モックアップ

図面・建築模型・スケッチ

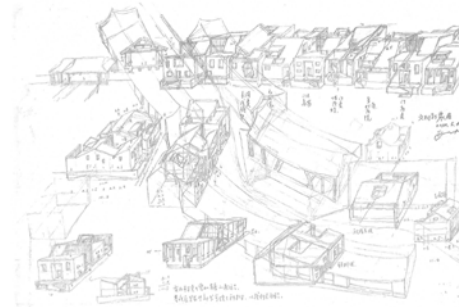
ワンとルーは、手作業による膨大なスタディを通じて建築を構想してきました。本展覧会では、完成した建築図面に加え、構想の初期段階に描かれたスケッチやコンセプト模型を紹介します。建築がどのように考えられ、「実験」され、時間をかけて形になっていくのか。その思考の過程をたどります。



ドローイング
中国美术学院象山キャンパス[第2期]
2005年、64.9X22.8cm、紙に鉛筆

映像・写真資料

ワンとルーの建築は、目まぐるしく変化する現代中国の時間とは異なる、ゆっくりとした時間を生み出します。その独特な時間性を伝える映像と写真資料を展示します。なお、作品写真の多くは本展のために新たに撮影されており、展覧会の開幕に合わせて刊行される作品集にも掲載予定です。



ドローイング
文村リノベーション
2014年、42X29.7cm、紙に鉛筆



文村リノベーション
2016年竣工
浙江省杭州市
延床面積 28,400m²
撮影：富井雄太郎

茶室

彼らの活動拠点である浙江省杭州市は、龍井茶の産地として知られ、南宋時代からの茶文化を育んできた土地でもあります。本展では、4階展示室に、竹や木材を用いたプレファブ・ユニットによって構成される本展オリジナルの現代茶室を設けます。中国茶室本来の目的である“リラックスする場所”として来館者に開放されるように計画されます。



上・下とも
中国美术学院象山キャンパス[第2期]
2007年竣工
浙江省杭州市
延床面積 80,000㎡
撮影:富井雄太郎

ワン・シュウ+ルー・ウェンユー展 建築すなわち庭 関連企画

シンポジウムの開催

本展の開催を記念し、2026年12月初め、日本の建築家とのシンポジウム「建築すなわち庭」を開催します。

作品集の制作『ワン・シュウ+ルー・ウェンユー作品集 | 建築すなわち庭』(仮題)

本展の開催を記念し、ワン・シュウとルー・ウェンユーの最初期から最新作までを総覧する世界初の作品集を制作します。

対話: ワン・シュウ+ルー・ウェンユー×妹島和世

解説: 市川紘司

発行: millegraph

判型: 224×297mm / 言語: 日・英

2026年12月刊行予定

ワン・シュウ+ルー・ウェンユー



ポートレート
©I.Mathie

ワン・シュウ(王澍／Wang Shu)は1963年生まれの実業家。

南京工学院(現・東南大学)を卒業後、同大学院修士課程を修了。2000年に上海同済大学大学院博士課程を修了。現在は中国美术学院建築芸術学院院长・教授。1997年からアマチュア・アーキテクチャー・スタジオ(業余建築工作室)を共同主宰。

ルー・ウェンユー(陸文宇／Lu Wen-Yu)は1967年生まれの実業家。

南京工学院卒業。現在は中国美术学院建築芸術学院教授。1997年からアマチュア・アーキテクチャー・スタジオを共同主宰。

ワンとルーが主宰する、**アマチュア・アーキテクチャー・スタジオ(業余建築工作室)**は、1997年に中国浙江省杭州市で設立された。「アマチュア」という名称には、巨大な設計組織や市場の速度に従うのではなく、伝統的文人のように、自らの「内的な基準」に従って建築を考えるという、批評的な態度が込められている。彼らは中国の伝統的な園林、山水画、詩文、工芸、そして各地の土地に根ざした素材や技術を参照しながら、建築と自然、古さと新しさ、素材と時間、形態と空間の新たな可能性を探究してきた。

主な建築作品には、中国美术学院象山キャンパス、寧波博物館、杭州中山路保存改修計画、文村リノベーション、富春山館、臨安博物館、杭州国家版本館などがある。

また著作には、『設計的開始』、『造房子』(邦訳『家をつくる』)がある。いずれも著者はワン・シュウ個人である。

ワンとルーの建築は、21世紀以降、世界的な注目と評価を集めてきた。2010年にエーリッヒ・シェリング建築賞、2011年にフランス建築アカデミー金賞を受賞。2012年にはワン・シュウが、中国大陸出身の実業家として初めてプリツカー賞を受賞した。2024年には英国王立建築アカデミー国際賞を受賞している。

本件に関する問い合わせ先

ワタリウム美術館 お問い合わせ | Tel:03-3402-3001 E-mail: official@watarium.co.jp